

東進ハイスクール 東進衛星予備校

第 1 問

解答

問 1	<input type="text" value="1"/>	③
問 2	<input type="text" value="2"/>	③
問 3	<input type="text" value="3"/>	④
問 4	<input type="text" value="4"/>	④
問 5	<input type="text" value="5"/>	④
問 6	<input type="text" value="6"/>	⑤

解説

問 1

正解は③。

イギリスとニュージーランド (NZ) の国土における標高や土地利用の割合を示した統計グラフの判別。両国の地形環境や開発の歴史などから考える。

NZ に該当する図はイ。NZ は変動帯の環太平洋造山帯に属する島国であり、火山や標高の高い山地 (南島のサザンアルプス山脈など) が多い一方、低平な土地には乏しい。イは、アに比べて標高 200m 未満の土地が少なく、標高 1,000m 以上の土地が多い。

イギリスに該当する図はア。イギリスは安定地域の古期造山帯に属する。グレートブリテン島の脊梁をなすペニン山脈は、長年の侵食を受けたなだらかな丘陵であり、最高峰でも 893m に過ぎない。

牧草地に該当する凡例は A。イギリスで伝統的に行われてきた牧羊は、イギリスと似た気候を持つ植民地の NZ にも 19 世紀中に持ち込まれ、独立後も主要な産業となった。

森林に該当する凡例は B。西ヨーロッパは地形が平坦で、産業開発や都市化の歴史が長いから、現在では森林率の低い国が多い。一方、NZ には南島を中心に多くの天然林が残っており、天然林の大半が失われた北島では輸出向けの木材生産のために針葉樹 (ラジアータパイン) の人工林が多い。

問 2

正解は③。

緯度ごとの陸地に占める永久凍土と氷河・氷床の割合を示したグラフの読み取りから説明文の正誤を判定する。気候に影響を与える気圧帯の分布を想起したい。

③は不適當。北緯 60 度を越えて両極に近い地域は、大気の大循環で生ずる極高圧帯である。冷やされた大気は重くなり、下降気流が発達するため降水量は少ない。氷河・氷床が発達するのは、降雪が多いからではなく、降った雪がとけずに積もり重なるからである。これより低緯度側に形成される亜寒帯低圧帯では、低気圧とともに前線が発生し、降水量が多い。

①は適當。世界最高峰を擁するヒマラヤ山脈や、平均標高が 4,000m を超えるチベット高原では、標高の影響で気温が低く、永久凍土が発達する。

②は適當。高緯度ほど太陽高度が低いため、日射量は少なく、低温となる。

④は適當。図 3 より、北緯 70 度では、永久凍土約 80%、氷河・氷床約 10% で、北緯 80 度では、それぞれ約 30%、約 70% と読める。したがって、陸地のうち氷河・氷床でない場所はほとんどが永久凍土になっている。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

問 3

正解は④。

ヨーロッパの海岸地形を示した地図のうち、1つの説明文を選択する。もともなった地形の成因の違いに着目する。地名の学習を用語で終わらせずに、地図帳などで実例を確認することが大切である。

Eは④。Eは長大な入り江をもつ複雑な海岸線から、スカンディナヴィア半島西岸、ノルウェーのフィヨルドとわかる。氷食谷とは、氷河の侵食による谷のこと。最終氷期に発達した氷河によって侵食されたU字谷（深くて広いU字の断面を持つ谷）が、その後の海面上昇で沈水して深い入り江となった。

Dは②。Eと似た海岸線だが、氷河ではなく河川の侵食を受けたV字谷が沈水して複雑な鋸歯状のリアス海岸が形成された。図はイベリア半島北西岸、スペインのガリシア地方である。

Fは③。Fはラッパ状の入り江から、大河川の河口周辺に形成された河谷が沈水したエスチュアリー（三角江）である。図はドイツのエルベ川河口である。

Gは①。Gは、陸から細く伸びた砂州が入り江を塞ぎ、潟湖（ラグーン）を形成している。図は、黒海東岸のドナウ川河口の南側である。ヨーロッパの大河であるドナウ川は、河口に大三角州（ドナウデルタ）を形成するほど土砂を運搬しており、これらが黒海の沿岸流に運搬され堆積したものが砂州である。

問 4

正解は④。

日照時間の季節変動に関するグラフから都市を判別する。ふだんの学習で目にするデータの少ないデータであり、難しい。問題文に示された2つの因子のうち、気候の影響を重視すると考えやすい。図に示された東京を例に挙げると、冬至に近い1月の方が日照時間は短くなりそうだが、日本の太平洋側は冬季に乾燥するため、雲が少なく日照時間は7月よりやや長い。

ムンバイは④。インド西岸、北緯約19度のムンバイは、季節風（モンスーン）の影響が強く、夏季には海洋からの南西季節風により著しい多雨、冬季には内陸からの北東季節風により乾燥する。そのため、雨雲に覆われる時間が長い7月には日照時間がきわめて短く、水蒸気量の少ない1月は日照時間が長い。

オスロは①。ノルウェーのオスロは、北緯約60度に位置する。偏西風と暖流の影響で気温や降水量の年変化の乏しいヨーロッパの気候の特徴を示す（西岸海洋性気候 Cfb と亜寒帯湿潤気候 Df の境界にあたる）。そのため、緯度の影響が大きい。極圏（緯度 66.6 度以上の地域）では、夏に太陽の沈まない白夜、冬に太陽の上らない極夜があることから、高緯度地域ほど昼と夜の時間の季節変動が極端に大きいことがわかるだろう。したがって、夏は日照時間が長く、冬の日照時間はきわめて短い。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

シドニーは③。オーストラリア南東岸、南緯約 34 度のシドニーは東京と同じ温暖湿潤気候 Cfa だが、季節風の影響はみられず降水量の季節変動は小さい。南半球の夏至に近い 1 月頃の日照時間の方がわずかに長くなるが、7 月との差は小さい。

ローマは②。地中海に突き出したイタリア半島の西岸、北緯約 42 度のローマは、典型的な地中海性気候 Cs の都市である。この気候区では、夏季に亜熱帯高圧帯に覆われて乾燥するため、夏至に近いことも重なって 7 月の日照時間がきわめて長くなる。

問 5

正解は④。

南北アメリカ 4 か国における洪水災害の発生時期の割合を示すデータで、発生時期の凡例を判別する。南北半球の季節の違いのほかに、洪水の発生要因も考慮に入れたい。

3～5 月はシ。寒冷な高緯度帯に位置するカナダでは、春先の雪解け水の流れ込みによって洪水が発生することが多い。

9～11 月はス。北半球の低緯度～中緯度に位置するメキシコでは、夏の雨季に降水量が多い上、カリブ海で 9・10 月に発生する熱帯低気圧であるハリケーンの被害も受けやすい。

12～2 月はサ。南半球のボリビアでは 12～2 月が夏であり、雨季にあたる。

なお、コロンビアは赤道上の国であり、年中高温多雨で、どの時期にもまんべんなく洪水が起きやすい。

問 6

正解は⑤。

日本における 3 種類の気象観測項目の記録上位の地点を示す地図において、項目の凡例を判別する。日本の自然環境に対する日頃の関心の高さが反映されるだろう。

最高気温はツ。低緯度の南西諸島ほど高温と考えてタを選んだ人はいないだろうか。熱しにくく冷めにくい海洋に囲まれた島嶼では日較差が小さく、夏の昼でもそれほど気温は上がらない。むしろ本州の内陸部で夏の日中に高温になりやすい。また、北陸地方では南風が山脈を越えて吹き下ろすときに高温となるフェーン現象が生じやすい。さらに、2018 年に 41.1℃の国内最高記録を示した埼玉県熊谷市や、2007 年に 40.9℃を記録した岐阜県多治見市では、フェーン現象に加えて、東京や名古屋のヒートアイランド現象（大都市の人工熱による気温上昇）の熱が南風で運ばれてきた影響も考えられる。

最大風速はタ。遮るもののない海洋上では風は強くなり、とくに台風の通り道に当たる南西諸島では強風が生じやすい。

日降水量はチ。雨雲は湿った空気が上昇して生ずるので、海沿いの山地では風向きによって大量の雨が降る。とくに太平洋岸の南九州・南四国・紀伊半島・伊豆半島（最高記録は 2019 年の神奈川

東進ハイスクール 東進衛星予備校

県箱根町) などにおいて、おもに台風の接近により湿った空気が大量に流れ込み、山地斜面に沿って上昇することが豪雨の要因となる。

第 2 問

解答

問 1	7	⑤
問 2	8	②
問 3	9	③
問 4	10	③
問 5	11	①
問 6	12	④

解説

問 1

正解は⑤。

鉄鉱石の産出および貿易に関する統計地図の判別。過去問では頻出パターンであり、2023 年度東進第 2 回共通テスト本番レベル模試でも、ほぼ同様の図を用いた類題を出題している。

産出量は C。鉄鉱石は、先カンブリア時代の岩盤が露出した楕状地に多く分布しており、オーストラリアやブラジル、インド、中国など楕状地が広がる国々が主要な産地である。

輸出量は A。産出量の図と似ているが、中国は粗鋼生産量が世界一（世界生産の半分以上を占める）で、鉄鉱石の国内消費がきわめて大きいため、ほとんど輸出していない。

輸入量は B。資源が乏しく輸入に依存する日本や韓国に注目する。また、中国は国産資源だけでは需要をまかなえず、世界最大の輸入国ともなっている。

問 2

正解は②。

日本の製鉄所の立地の変化を示す地図から、会話文の正誤を判定する。正文は比較的わかりやすいが、誤文の判断はやや難しい。

②は誤り。1940 年の時点では、国内の埋蔵量が乏しい鉄鉱石の輸入依存度はすでに高かったものの、燃料となる石炭の産出は盛んで、「枯渇」したとはいえない。なお、のちに 1960 年代のエネルギー革命において石炭の自給率が低下したのも、石炭が枯渇したからではなく、（石油への転換に加え）石炭の内外価格差が大きく、輸入した方が安上がりだったため、生産コストの高い国内の産炭を中止したからである。

①は正しい。このような原料を重量減損原料といい、工場は原料産地指向型の立地となる。

③は正しい。三大都市圏ではすでに用地不足が生じており、埋め立てによる用地確保が進んでいた。瀬戸内地方では、かつての塩田などが埋め立てられて臨海工業地域が形成された。

④は正しい。日本で高炉を持つ一貫製鉄会社は、1980 年代には 6 社あったが、現在では 3 社に統合・再編されている。

問 3

正解は③。

日本の石炭輸入相手国の推移を示すグラフと説明文の組み合わせ。グラフの判別と説明文の判別が組み合わせられており、難易度がやや高い。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

E はオーストラリアで説明文はイ。オーストラリアでは、東岸の古期造山帯グレートディヴィアイディング山脈周辺に大規模な炭田が多く、世界第 5 位の産出国であり、世界第 2 位の輸出国となっている。産出の割に輸出が多いのは、人口が 2,600 万人程度で国内市場が小さいためである。

F はインドネシアで説明文はア。インドネシアでは国内でのエネルギー需要の拡大を反映して 1980 年代から石炭の産出量が急速に増加し、90 年代からは日本への輸出も盛んに行われている。

G はアメリカ合衆国で説明文はウ。アメリカ合衆国は世界最大の石炭埋蔵量を誇り、産出量でも世界第 4 位であるが、中国やインドに次いで消費量が多いため、輸出に回される分はそれほど多くない（輸出量は世界第 6 位）。

問 4

正解は③。

4 か国の人口 1 人当たりの製造業付加価値額（以下、付加価値額）と GDP に占める製造業の割合（以下、製造業割合）の推移を示したグラフを判別する。まずは 2 つに絞りたい。付加価値額の低い①、②が発展途上国（新興国）の中国かベトナム、③、④が先進工業国のドイツかイギリスと大別しておく。

ドイツは③。ドイツは世界有数の技術力を持つ EU 最大の工業国である。したがって製造業割合を維持しつつ、付加価値額はきわめて高い水準で拡大している。

イギリスは④。先進工業国ではあるが、イギリスの経済構造はアメリカ合衆国と似ており、金融・サービスなど第三次産業のウエイトが高まっている。そのため製造業の割合は低下している。

中国は②。21 世紀以降、中国は「世界の工場」として製造業が成長しており、あわせて技術力を高めることで付加価値額も伸びている。

ベトナムは①。1980 年代からのドイモイ政策による市場経済導入と対外開放で工業化の進むベトナムだが、いまだに経済の中心は繊維・雑貨・電気機器組み立てなど付加価値額の小さい労働集約的部門である。

問 5

正解は①。

日本の大都市圏のある地域における繊維工場跡地の土地利用の変容に関する文章の正誤を判定する。同様の用地転換は各地にみられるが、本問では産業の空洞化の理解が誤文判別の決め手となる。なお、図 5 は愛知県江南市の一部。

①は不適當。1980 年代後半のバブル経済の時代には、急速に進んだ円高や国内の人件費高騰などから、労働集約的産業を中心に安価な労働力を求めて（国内の農村部ではなく）アジア諸国への生産拠点の移転が進んだ。このような動きを産業の空洞化という。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

②は適当。ショッピングセンターなどの大型複合施設は、大きな駐車場を備えて、自動車を使った広い商圏からの来客を前提としている。

③は適当。広い屋根を持つ工場施設の西側に小さい建物が整然と並んでいる。これは戸建て住宅地として分譲されたものと考えられる。

④は適当。研究開発 (R &D) 部門は、大都市圏で得られやすい高度な人材や情報の利用が欠かせない。

問 6

正解は④。

日本の製造業が盛んな地域における、資源や産業をめぐる新しい取り組みについて、その目的と具体的な取り組みを組み合わせる。このタイプの問題は頻出で、日本語の読解力が試されているが、これは易しい。

P はシ。近年の「工場萌え」ブームの中で、いくつかの工場夜景が愛好家から「聖地」と称賛されており、屋形船から鑑賞するクルージングや、展望台からの鑑賞会などが実際に行われている。これらは工場の本来の役割から離れた「新たな価値」の創造といえる。

Q はス。生ごみや間伐材を利用したバイオマス発電は、再生可能エネルギーの一種であり、環境に配慮した持続可能なエネルギー利用といえる。

R はサ。中小のベンチャー企業が新たな分野で成功すれば、企業城下町における特定の大企業による経済支配から脱却することができる。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

第 3 問

解答

問 1	13	⑤
問 2	14	②
問 3	15	④
問 4	16	③
問 5	17	④
問 6	18	②

解説

問 1

正解は⑤。

日本の大都市圏における3地点の1960年代の景観を示す写真と、それらの地域の説明文を組み合わせる。地域の変容について、しっかりした理解が求められる。

Aはウ。Aには、クレーンの備わった港湾に接岸する船、埋立地のような区画に並ぶ大規模な施設などが写っており、臨海部の工業地域と思われる。現在、工場の整理・縮小などで生じた広大な用地は、他に転用されていると考えられる。

Bはア。Bには、立ち並ぶ高層ビルと、その間を通る都市高速道路が写っており、都心の景観であると思われる。当時の都心部では地価の高騰などで居住者が郊外に流出するドーナツ化現象がみられたが、バブル崩壊後の地下下落や規制緩和などから、利便性の高い都心周辺が見直され、再開発によって高層マンションなどが建設され、比較的裕福な若年層が流入するジェントリフィケーションが生じている。

Cはイ。Cには開発された丘陵地に集合住宅が立ち並ぶ様子が写っており、郊外の住宅地域と思われる。ニュータウンなどとよばれる新興住宅地には、完成と同時に都心に通勤する勤労者世帯が一斉に入居したが、現在では当時の入居者の高齢化が深刻である。

問 2

正解は②。

日本の4つの市区における昼夜間人口比率や通勤・通学者の交通手段に関する統計表を判別する。いずれのデータ内容も頻出であり、過去問研究をしていれば難しくないだろう。

福岡市は②。県庁所在地であり、広域中心都市でもある福岡市は、県内の周辺市町村から通勤・通学者を受け入れるため、昼夜間人口比率は100を超える。また、首都圏に次いで鉄道網などの公共交通機関が発達している。

秋田市は③。秋田市は県庁所在地ではあるが、中心地機能では福岡市に劣り、昼夜間人口比率は100を超えるものの福岡市よりは低い。また、人口規模が小さいため公共交通網は発達しておらず、自家用車での移動が中心となる。

中央区は①。都心に位置する中央区はCBD（中心業務地区）を有し、多くのオフィスビルが立ち並ぶ。一方、（ジェントリフィケーションにより回復しつつあるものの）常住人口は少ないため、昼夜間人口比率は極端に高い。道路は慢性的に渋滞する一方、地下鉄を含む鉄道網が高密度に発達している点も判断の根拠となる。

調布市は④。東京郊外のベッドタウン（住宅衛星都市）にあたるため、常住人口のうち昼間には都心に通勤するものが多く、昼夜間人口は100を下回る。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

問 3

正解は④。

500 万人以上の都市圏人口について、先進国・BRICS・発展途上国における 1990 年と 2015 年間の推移を示すグラフにおいて、凡例の国家群を判別し、文章の空欄に当てはまる語句を組み合わせる。グラフ判別で迷いそうだが、1990 年から 2015 年の伸び率がポイントになる。

キは BRICS。図中の破線は、1990 年と 2015 年の都市圏人口に変化がないことを示す。そこから上に離れるほど、この期間に人口が増加したことを表している。キの口は、破線から上に離れた都市が多く、急速な経済成長とともに都市圏人口が拡大した新興工業国である BRICS の都市であるとわかる。

カは先進国。すでに 20 世紀中までに発展を遂げている先進国では、都市圏の人口が飽和状態に達しており、そこから大きく拡大することはない。

x は小売業・サービス業。発展途上国では、多くの労働者を吸収するほど金融業は発達していない。農村部から流入した人々の多くは、高度な知識や専門的スキルを持たず、人口に比例して一定の需要がある小売業やサービス業の非熟練労働力として糊口をしのいでいる。

問 4

正解は③。

3 か国の上位 10 都市圏の人口規模を示すグラフと国名を組み合わせる。頻出事項をベースにしており、ミスしたくない問題である。

イタリアはシ。細長い国土を持つイタリアでは、国土の中部～南部に人口最大都市の首都ローマやナポリ、産業の発達した北部にはミラノ、トリノなどの工業都市、シチリア島のパレルモなど、各地に都市が分散する傾向がある。

オーストラリアはサ。イギリスからの初期入植者が建設した南東岸の 2 大都市シドニーとメルボルンに人口が集中している。首都キャンベラは、2 大都市の間に計画的に建設された人口規模の小さい政治都市である。

バングラデシュはス。発展途上国では投資効率を高めるために中心都市に資本が集中するため、人口規模の大きい首位都市（プライメートシティ）が発達しやすい。首位都市は、周辺農村部の余剰労働者が流入することで、他の都市に比べて人口が極端に突出する。同国では、首都のダッカがこれにあたる。

問 5

正解は④。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

アメリカ合衆国とメキシコの2つの都市圏における貧困が問題となっている地区（以下、貧困地区）の分布図をもとに、文章の正誤を判定する。落ち着いて貧困地区の分布を確認していけば、誤文の判断は容易である。

④は不適當。高速道路沿いには分布していないし、そもそも高速道路が放射状に敷設されていない。

①は適當。都心に近い古い住宅街で、居住環境が悪化し、治安が低下したインナーシティと呼ばれる荒廃地域である。

②は適當。インフラが未整備な不良住宅街をスラムという。

③は適當。旧湖底を埋め立てた盆地状の土地に広がるメキシコシティでは、居住に適さない都市周辺の傾斜地にスラムが集中している。

問 6

正解は②。

アメリカ合衆国の4都市における主要言語を示すグラフの都市名を判別する。アメリカ合衆国内の民族集団の地理的分布は頻出事項といえよう。

シアトルは②。太平洋岸には中国、インドなどのアジア系移民が多く居住するので、②と③がシアトルかロサンゼルスに該当する。このうち、メキシコと隣接するロサンゼルスにはスペイン語を母語とするヒスパニックが多いので③、その割合が小さいシアトルは②と判別する。

ミネアポリスは①。中西部の農業地域の都市であり、英語を使うヨーロッパ系民族が多数を占める。

マイアミは④。フロリダ半島にはカリブ海の社会主義国キューバからの移民やその子孫が多く居住しており、スペイン語話者が英語話者を上回る。

第 4 問

解答

問 1	19	④
問 2	20	③
問 3	21	③
問 4	22	②
問 5	23	②
問 6	24	④

解説

問 1

正解は④。

太平洋の4地点における地形断面図を判別する。おおまかなプレート境界の分布を押さえておくだけでは正解に辿り着きにくい難問である。

Bは④。Bは太平洋プレートの北半球における中央部ではあるが、ハワイ諸島のすぐ西側である。ハワイ諸島は、プレート境界から離れた地点で局所的にマントルが上昇し、マグマが噴出するホットスポットに当たる。プレートは北西に動いているが、ホットスポットの位置は不変であるため、ハワイ島から北西の方向に火山島や海山が列状に並んでいる。

Aは①。Aは太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に沈み込むマリアナ海溝を横切っており、水深9,000mに近い海溝（マリアナ海溝、最深部は-10,920mのチャレンジャー海淵）と、その西側に並行する弧状列島（マリアナ諸島）がみられる。

Cは③。Cは太平洋プレートの南東端を区切る東太平洋海嶺の西側に当たり、平坦な海底を示す。Cと海嶺との位置関係が微妙で、判断しづらい。

Dは②。Dの西端はオーストラリア北東部に発達したさんご礁グレートバリアリーフ（大堡礁）付近であるが、さんご礁は日光が届く浅い海底で発達する。

問 2

正解は③。

3地点のハイサーグラフと、民族衣装に関する説明文を組み合わせる。ハイサーグラフの判読をしっかり練習しておきたい。

Fはイ。Fは、夏は月平均気温が10℃を超えるが、冬には-3℃を下回る亜寒帯気候のグラフである。短い夏にわずかな植生を、冬にも雪をかき分けて食べるトナカイが飼育され、その毛皮がアノラックなどの防寒服になる。

Gはア。Hと同様に気温の年較差が小さく低緯度地域と思われるが、10℃を超える程度で涼しい。これは標高の影響を受けた高山地域の気候である。アンデスの高山地域でリヤマとともに飼育されるアルパカの毛は、先住民の伝統的な貫頭衣として知られるポンチョに用いられる。

Hはウ。Hは年中高温の赤道付近の熱帯で、雨季と乾季に分かれたサバナ気候である。雨季の高温多雨をしのぐために、通気性・吸湿性の高い綿布が利用される。

問 3

正解は③。

3か国のたんぱく質供給量の統計表において、国名を判別する。キとクの判別が決め手となる。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

日本はキ。和食文化を持つ日本は、先進国の中では総供給量が低位であることに注意したい。また、欧米諸国に比べると、肉は少なく、魚が多い。ベトナムとの比較では、流通の発達した日本の方が牛乳の消費が大きくなる。

カナダはカ。欧米の食文化では肉類や牛乳・乳製品の消費量が大きくなりやすい。

ベトナムはク。戦後の日本の食生活がアメリカ合衆国の影響で洋風化したように、ベトナムではフランス植民地時代の影響でパン食などが普及しており、発展途上国ではあるが日本との差が小さいので、やや判断が難しい。

問 4

正解は②。

環太平洋の3つの島嶼国・地域における出発地域別観光客数の割合を示したグラフと凡例の判別を組み合わせる。国名と凡例の両方が伏せられているので、ややパズル的な難しさもある。

グアムはサ。Jがアジアであるため（後述）、Jの多いサが、アジアに最も近いグアムである。

ハワイはシ。ハワイはアメリカ合衆国の50番目の州であり、北アメリカからの来客が最も多い。

フィジーはス。オーストラリアやニュージーランドに近いフィジーは、オセアニアからの来客が最も多い。

ヨーロッパはK。Kはタヒチで割合が高い。太平洋地域は、ヨーロッパからみれば地球の反対側であり、全体的にヨーロッパからの観光客は少ないが、タヒチを含むポリネシア諸島はフランスの海外領土となっており、特にタヒチはかつてフランス人画家ゴーギャンが愛した島として著名である。よって、フランスを中心とするヨーロッパからの来訪者が多くなっている。

アジアはJ。ハワイには日本から観光客が多いことは知っているだろう。北アメリカに次いでアジアからの来訪者が多くなっている。

問 5

正解は②。

4か国相互の輸出額を示した図における国名を判別する。図そのものの読み取り方の把握や解釈に時間がかかり、内容的にも難しい問題であった。

Qは中国。2019年における相互の輸出額が大きいPとQが世界の2大貿易国であるアメリカ合衆国と中国のいずれかと考える。両国が「米中貿易戦争」で厳しく対立しているのも、世界的な主導権争いのためだと理解したい。Qは2019年ではPの他、RやSにとっても重要な輸出先に成長している。資源国であるオーストラリアやペルーからの輸入が急増していることから、国内需要が拡大する中国とわかる。

Pはアメリカ合衆国。2つのうち、中国がWTOに加盟する以前の1999年時点で輸出額が大きかったPをアメリカ合衆国と判断する。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

R はオーストラリア。オーストラリアの石炭や鉄鉱石にとって、近年の中国はかつての日本を上回る得意先となっている。

S はペルー。4 か国中最も経済規模が小さく、輸出元としても輸出先としてもウエイトが低い。

問 6

正解は④。

1999 年と 2019 年における日本企業の現地法人数を示す統計地図に関して述べた文章の正誤を判定する。統計地図を提示しながら、それが正誤判定に関係しない問題は過去にもあった。

④は不適當。現代の自動車製造において、部品の生産から完成品の組立てまでを一貫して行うことはほとんどない。数万点の部品からなる自動車製造では、多くの関連企業が部品を製造し、自動車製造工場では最終的な組立てのみを行う。アジアに進出した自動車企業の場合、部品を現地で調達する場合と、日本から持ち込む場合（ノックダウン生産）がある。

①は適當。2019 年を 1999 年と比べると、アジア諸国（特に中国やタイ・ベトナム）の円の面積は大きくなっているが、北アメリカではメキシコを除き変化が乏しい。

②は適當。円グラフの中の割合から明らかである。

③は適當。何千という企業が進出する中で、そのような企業が 1 社も含まれないことは考えられない。ソフトウェアや AI の分野では、アメリカ合衆国の技術が世界をリードしており、それを吸収するための進出もあり得る。

東進ハイスクール 東進衛星予備校

第 5 問

解答

問 1	25	⑤
問 2	26	⑥
問 3	27	④
問 4	28	②
問 5	29	③
問 6	30	③

解説

問 1

正解は⑤。

中国地方の3都市における1月の日照時間・平均気温の統計を判別して組み合わせる。第1問 問4で見たように、降水量の少ない季節には日照時間が長くなる。3都市の緯度差はほとんど影響しないので、気候の違いに注目する。

浜田市はウ。1月の日本海側は北西季節風の影響で降雪をふくむ降水量が多くなるため、雲量が多く日照時間が短い。一方、沖合を流れる暖流（対馬海流）の影響で比較的温和である。

広島市はア。瀬戸内地方は、冬の季節風は中国山地に遮られ、夏の季節風は四国山地に遮られて年中少雨となる（頻出事項）。このため、1月は太平洋側と同様に晴天の日が多く、日照時間が長くなる。

三次市はイ。海から離れた内陸部は、夏は高温、冬は低温で気温の年較差が大きい。したがって、沿岸部の浜田市や広島市に比べて1月の平均気温が極めて低くなる。

問 2

正解は⑥。

石見地方の各地区における3種類の商品やサービスの主な購買・利用先に関する統計地図を判別して、組み合わせる。図の読み方の確認が面倒だが、日常的な買い回り品ほど身近な地域で購入する、という常識的な理解をベースに、確実に得点したい。

衣料品・身回品はク。実際には消去法で残る。最寄り品（例えば肌着）と買い回り品（例えば礼服やブランド品）の両方の性格を含むため、自地区での購入も多いが、周辺市町村での購入もある中間的な図を選ぶ。

娯楽・レジャーはキ。旅行のような余暇活動は、休日を利用して自地区以外に移動するのが一般的である。例えば、出雲市の出雲大社を参拝する、広島市のマツダスタジアムで広島カープを応援する、などの行動である。

食料品はカ。毎日のように購入する食料品は最寄り品の典型であり、ほとんどの場合、自地区の商店（スーパーやコンビニなども含む）を利用する。

問 3

正解は④。

浜田市における人口分布を示した統計地図（メッシュマップ）、施設の立地を示した地図をもとに、2つの小学校区における最寄りの施設への距離別人口割合を示したグラフにおいて、グラフの施設

東進ハイスクール 東進衛星予備校

名、学区を判別し、組み合わせる。内容的な難易度は低いものの、問題文が長く、図版が多いため、手間暇がかかる。落ち着いて処理したい。

まちづくりセンターは Y。まちづくりセンターはコンビニエンスストアに比べて施設数が多く、まんべんなく立地しているため、全体的に「1km 未満」の割合が高く、「3km 以上」がほとんどない Y に該当する。

コンビニエンスストアは X。人口集中地区である小学校区 a ではまちづくりセンターとの差が小さいものの、郊外の b や c では Y との差が大きい。

小学校区 b はシ。図 3 を見比べると、c に比べて b の方が区域が広く、1 つしかないコンビニエンスストアから 3km 以上離れた場所に分布する人口割合が高い。X のグラフを見ると、明らかにシのほうが「3km 以上」の割合が高い。

問 4

正解は②。

浜田市市街地周辺の地理院地図と、4 つの景観写真に基づいて、会話文の正誤を判定する。地図や写真、会話文を一つ一つ丁寧に確認するのは骨が折れるが、誤文の内容は写真を見れば明瞭である。

②は誤り。F にはシャッターの閉まったやや古い商店や住宅、1 車線の狭い道路が写っているだけで、「大規模な再開発」の姿は見えない。地理院地図で見ても、F 付近は市役所からは比較的近いものの、とくに再開発を示す事物は読み取れない。

①は正しい。E は海岸まで山地が迫る入り江であり、水深の深さが想像される。外海からある程度区切られた内湾では、波は穏やかになる。

③は正しい。G は、地図から直線的な海岸線に囲まれ、規則的な道路が敷設されたようすが読み取れる。埋立地に特徴的な地形である。

④は正しい。H の周辺は、等高線が密な丘陵地になっており、高い土地を削る「切土」や、低い土地に土砂を入れる「盛り土」によって、高台に平坦な宅地を造成したことが推定される。

問 5

正解は③。

商品流通の歴史を示した資料に基づく会話文の空欄を補充する語句を組み合わせる。日本史の知識が役に立つ、「地歴連携」を思わせる出題であった。

夕は砂糖・塩。江戸時代の砂糖（白砂糖）は、長崎貿易で中国船やオランダ船によって持ち込まれたものが大阪（大坂）の市場を経て流通した（18 世紀に入ると琉球・奄美産の黒砂糖が薩摩藩経由で持ち込まれ、18 世紀後半からは讃岐・紀州など西日本各地でサトウキビの栽培が始まり、国産の白砂糖も生産されたが、これらも大阪の間屋を通して江戸や各地に流通した）。塩は、各地の塩田

東進ハイスクール 東進衛星予備校

で製造されたが、雨の少ない瀬戸内地方には多くの塩田があった。したがって、砂糖や塩は、酒などと共に大阪から浜田や東北・北陸、北海道への西廻り航路（北前船）の下り便（J）でもたらされた。

一方、昆布は蝦夷地（北海道）産であり、上り便（K）で運ぶことになる。主産地であった北陸などから大阪の蔵屋敷に運ばれる米も同様である。

チは海路。水甕の確認された地点のほとんどが日本海側の西廻り航路に沿った、北前船の寄港地にあたる。

問 6

正解は③。

石見地方の過疎問題について、発生要因と解決に向けた取組みの目的についてまとめた資料について、その具体例との結びつきを判別する。ほぼ常識的に判断できるので、時間配分に注意して冷静に処理したい。

P は③。伝統行事を守り伝えることは、住民の地域文化に対するリスペクトにつながり、地域への帰属意識を高めることに寄与する。

Q は①。交通空白地域に乗合タクシーなどの新しい交通手段を取り入れることで、過疎地域の不便さを解消し、買い物や通院などの日常生活の利便性が高まる。

R は④。サテライトオフィスとは、企業の本社・拠点から離れた場所に設置する小規模なオフィスのことである。ICT、インターネットの活用で遠隔地での業務遂行が容易になったため、コロナ禍を契機に普及が進んでいる。過疎地域の児童減少で廃校になった校舎を利用してサテライトオフィスを開設すれば、若い移住者の就労機会の確保につながる。

S は②。地元産の農水産物などが、ブランド化をきっかけにその魅力が再評価され、都市部の市場で評判になる例は多い。農水産業における生産（1次）、農水産物の加工（2次）、ブランド化を含めた流通（3次）を合わせた「6次産業化」は、過疎地域の経済振興にとって重要な指針となっている。